

令和5年度山口県公共事業評価委員会（第3回）審議概要

日時：令和5年10月12日（木）13:30～15:30

場所：県庁4階 共用3号会議室（対面とWeb会議の併用により実施）

出席委員：（対面）進士委員長、小谷委員、種市委員、船崎委員、宗近委員
（Web）浦上委員、三輪委員

議事概要

◆再説明

○山口きらら博記念公園都市公園事業に対する質問への回答について

<再説明及び審議>

県）

配布資料（パワーポイント）により説明。

委員）

月の海とその周辺の干潟の活用、イベントなどで利用はしているか。

県）

月の海では、直近ではシャボン玉のイベントが開かれ、お盆にもかかわらず多くの人々が来園した。また、公園内で設置許可として運営しているアクティブテラスきらいずによる、月の海でのサップやカヌーの体験教室も開催されている。干潟としての活用は、今後検討の余地があると思う。

委員）

質問の回答について、納得した。費用便益を示す値としては、人数ではなく金額の方が分かりやすくよいと思う。今回のように、表により示していただくととても分かりやすかった。

委員）

現地視察で、アクセスが悪く行きづらい、さらにイベント時に混雑する、などの課題があることを感じた。今後、コンスタントに来てもらえるよう考えてほしい。

また、BMX ダートコースなどの新しい取り組みについてはよいと思う。利用者が多くはない層に刺さることで、絶えず人が来てもらう仕組みも大事である。

ところで、現在の指定管理者は令和元年から令和5年で終了なのか。令和6年度以降については、もう決まっているのか。

県）

現在、基本構想を策定しているところであるため、令和6年度については、現在の指定管理者に延長してもらう予定である。

◆令和4年度 山口県公共事業評価委員会 個別事業に対する意見への対応について

○港湾事業

<意見内容>

「港湾施設の事業効果について、県民の理解がさらに深まるよう分かりやすく示し、利用促進を図っていく必要がある。」

県）

配布資料（パワーポイント）により説明

委員）

浮棧橋について、門のように見えるところが安定性を向上させているのか。

県）

整備前は、浮棧橋が海に流出しないように海底からチェーンでつないでいたが、潮位の干満

に追従するために上下左右前後にある程度動ける構造になっていた。

整備後は、門のように見える杭に浮棧橋を固定しているため、前後左右の動きがある程度制限されることにより、安定性が向上している。

委員)

海底に固定された門の中でしか浮棧橋が動かないので安定し、乗り降りし易いということか。

県)

そのとおりである。

委員)

私が山口から松山に車で行く場合は柳井港を利用するのだが、車が無い場合は、柳井港に行くまでが大変なため、広島駅を經由して広島港から松山に行くことが多い。

松山に車以外で行きたいという人を呼び込むような工夫は無いのか。

県)

柳井港フェリーターミナルは、JR山陽本線と近接しており、公共交通機関を利用することによりアクセスできるが、新幹線駅に近接している広島港と比べると利便性の面で劣ってしまうところはあるかもしれない。

柳井港フェリーターミナルをより多くの方に利用してもらうためには、県だけでなく公共交通機関やフェリー会社等と連携した利用促進の取組が必要と考える。

委員)

広島港も決して便利というわけではないが、広島駅から新山口駅へは新幹線を使えば30分で行けるので、そこが課題。松山に行くために柳井港を利用したいと思えるようになれば良いが。

委員)

岡山経由なら新幹線とJRを利用して行けるので便利である。

松山側も移動が不便という問題があるため、県に求めるのは気の毒かもしれないが。

委員)

港湾事業できれいになったので、皆さんに利用してもらうことが大切。

○海岸侵食対策事業

＜意見内容＞

「海岸侵食対策事業において整備される施設には目視点検できないものがあるため、適切な施設の維持管理について検討する必要がある。」

県)

配布資料(パワーポイント)により説明

委員)

海岸保全施設維持管理マニュアルでは定期点検頻度についての記載はあるのか。

県)

5年に1回程度と記載されている。

委員)

頻度もだが全てを点検するのは容易ではないため、どの範囲を点検するかも考えておく必要がある。

委員)

ドローン点検は外部委託するのか、それとも県所有のドローンを使うのか。

県)

予算との兼ね合いもあるため、点検手法も含め、今後検討することとしている。

委員)

他の公共施設も同様だが点検費用のことも考える必要がある。外注もいいが自分たちで取り組む姿勢も必要である。

県)

海岸保全施設については、できるだけ職員による点検にしたいと考えている。

委員)

山口県はDXの活用に先進的であるため、今後の取り組みに期待している。

◆説明及び審議

①徳山下松港 徳山地区 大島・杵島地区 光地区 下松地区 笠戸島地区 海岸高潮対策事業 (番号 2-10)山口県事業【再評価】

<事業説明及び審議>

県)

配布資料(パワーポイント)により説明

委員)

擬木胸壁とは何か。

県)

コンクリートやプラスチック等を着色し、天然木を模した胸壁のことである。

委員)

今まで使用した実績はあるのか。

県)

県内の高潮対策事業での実績はないが、都市公園内など、景観に配慮すべき場所において使用した実績はある。

委員)

コンクリートと比べて高いのか。

県)

通常のコンクリート胸壁と比べると高価である。

委員)

便益の中で公共土木施設被害軽減便益の割合が大きいが、徳山下松港において、どのような公共土木施設被害を想定しているのか。

県)

徳山地区であれば、海岸保全施設背後にある県道(徳山新南陽線)を想定している。

委員)

高潮の定義及び徳山地区の高潮の高さについて教えていただきたい。

県)

高潮とは、台風等が通過する際、気圧の低下による吸い上げや風の吹き寄せにより潮位が大きく上昇することである。また、徳山地区の高潮の想定高さは、東京湾平均海面から3.9mである。

委員)

陸閘の開閉は誰が実施しているのか。

県)

徳山地区であれば、県が周南市に陸閘の開閉を委託しているが、最終的には、市の再委託先である民間企業等が作業を実施している。

委員)

高潮とは越波の可能性があるということなのか。

県)

越波の可能性のある状況は、高潮と言える。仮に越波の可能性が無くても、潮位が大きく上昇すれば高潮である。

委員)

徳山地区の残事業はあと僅かであるが、事業完了後は、浸水想定区域が無くなるということなのか。

県)

そのとおりである。

委員)

瀬戸内海では、津波に対して高潮対策はどの程度有効なのか。

県)

瀬戸内海では、津波高さに対して高潮高さの方が高いため、高潮対策は津波対策を兼ねている。

委員)

陸閘を統廃合した事例はあるのか。

県)

高潮対策にあわせて、陸閘の統廃合を検討している。統廃合により、少しずつ総数が減少してきている。

① 三田尻中関港 防府地区 海岸高潮対策事業(番号 2-11)山口県事業【再評価】

県)

配布資料(パワーポイント)により説明

委員)

胸壁を整備し、再度整備しないといけなくなっているところは高潮対策未施工区間なのか。

県)

一度高潮対策を実施しているものの、平成 11 年の台風 18 号の被害を受けて、高潮対策検討委員会の中で潮位の見直しを行っており、その潮位に基づき嵩上げ等の整備を行っている。

委員)

胸壁の改良を実施する箇所が遅れている理由は何か。

県)

過去の浸水被害や背後地の状況を勘案し、優先して整備する順番を決めている。胸壁を施工する箇所が遅れているのは、優先順位が低かったためである。

②山口港 山口地区 海岸高潮対策事業(番号 2-12)山口県事業【再評価】

<事業説明及び審議>

県)

配布資料(パワーポイント)により説明

委員)

南前にある海岸保全区域が、海沿いではなく、陸側にある理由は何か。

県)

海岸保全区域を設定したときは、現在の陸側の位置が海沿いだったため。その後、農林の事業にて埋め立てが行われて、防護ラインが海沿いに新たに築かれた。

委員)

海岸保全区域を指定し直さなくていいのか。

県)

本来であれば、海岸保全区域を指定し直す必要があると思われる。

委員)

カブトガニの調査等で山口港によく行くが、新規に設置した水門とはどこにあるのか。

県)

新地地区に水門1基を新設している。

委員)

事業期間延長の理由がすべて陸閘の統廃合に伴う関係者との調整となっている。潮位が新基準になって高くなったから、コンクリートで嵩上げたところを関係者から陸閘を作り直すよう言われ、時間を要しているということか。

県)

設計段階で地元調整を行い、陸閘の数を減らす努力はしているが、地元の方も誰が陸閘を使用しているかわからないため、陸閘を撤去していいという回答がすぐには得られない。この調整に時間を要している。

委員)

陸閘は海に降りるものであるが、そこには漁協権があり、一般の人は入ってこないと思うが、陸閘を使っている人がいるかもしれないという予測で判断しているということか。

県)

海に降りられるようになっているが、目的が分からない陸閘も多く、事業をきっかけに維持管理費を低減させるため、設置理由がわからない陸閘を統廃合していく作業なので、時間と労力を要している。

委員)

榎野川の干潟耕運のために陸閘を使って海に降りているが、一般の人があの危険な陸閘から降りることは考えにくい。よくヒアリングできたらいいかと思う。

委員)

少しの嵩上げのために長浜地区は大規模な改良となっているのに対し、岩屋地区は小規模な嵩上げで済んでいる。場所によって異なるのはなぜか。

県)

同じ嵩上げでも老朽化対策を併せて実施する場合とそうでない場合で改良する構造が違うためである。